

## 45 とりでまちひやくばんかんのん 取出町百番観音



指 定 市有形文化財 昭和49年12月 1日  
 所在地 取 出 町  
 所有者 取 出 町 区



取出町観音堂は江戸初期に建立されたものらしく、承応3年（1654）の「家別人別帳」に見られる堂（元和10年、十王堂立つ）をこれにあてる説もあれば、もとは阿弥陀堂だったとの説もあるが、いずれも後年観音堂に改められたとしている。堂が北向きのため辻堂とも八面山観音堂ともいう。

百番観音とはいうが、観音像は99体で、その内訳は聖観音が最も多く、十一面観音・千手観音がこれにつき、以下、如意輪観音・馬頭観音であり、百体目の本尊は阿弥陀如来である、立像70体・坐像30体。

1体の仏像の台裏には寛保2年（1742）と墨書銘があるので、このころ退廃していた堂が再建され、百体観音が祭られたものであろう。

現在の堂は弘化3年（1846）に野沢村の小林市太郎が請負って再建したもので、間口5間・奥行3間半、回廊付きの堂作りで、堂内には三段の須弥壇しゆみだんを設けて、上段中央に阿弥陀如来、各段にそれぞれ観音像を安置している。

なお、堂内入口の左隅には黒膝のびんずる尊者像が、また堂庭の東北隅には、高遠石工たかとういしくの手になる竜を彫刻した石尊大権現の石灯籠が建てられている。

参考資料 「取出町村史」岩井伝重